



山形大学
Yamagata University

IR担当者向け実践プログラム 第5期（2023年度）

IR入門（導入編）



山形大学 学術研究院 教授

藤原 宏司

2023.5.20

今日の授業では

- IRに関連するグループワークを**2セット**行います。
 - 1回目と2回目では、トピック&メンバーが変わります。
 - なるべく重複がないようにランダムにグループ分け
 - グループを**4つ**作ります。（Social golfer problem）
 - ファシリテーターの先生の指示に従って、活発なディスカッションを行いましょ。
 - **受講生による、グループワークの成果発表**があります。
 - グループワークの最後に、講師陣からの説明があります。

グループワーク #1



#1. IRって何でしょう？（45分）

- 以下のトピック等について考えてみましょう
 - **IR担当者の役割**（IR業務）って何ですか？
 - IR業務って、配属されてすぐにできる**簡単な物**ですか？
 - みなさんの大学では、IR業務が**効率的**に行えていますか？
 - IR担当者として必要なスキルを「**1つだけ**」挙げるとしたら何ですか？
 - みなさんの大学における「日本文学」を専門とする教員数や学生数を「すぐに」求めることはできますか？
 - 日本全国の大学を対象に求めることは可能でしょうか？

解説： IR（Institutional Research）とは

- 本プログラムにおける
IR（Institutional Research）とは、大学における
計画立案や意思決定等の**サポート**に必要な、
学内外データの**収集・分析・可視化機能**のこと
- ポイント
 - **米国の大学で発展してきた考え方で、**
日本の大学経営の中で生まれた概念ではありません。
 - 英語の「Support」≠ 日本語の「支援」
 - 英語の「Research」は、日本語の「研究」以外の意味を持つ時もあります。
→ 「データ収集」や「調査」も「Research」

解説： IRとは（2）

■ ポイント

- IRへの捉え方、考え方は、米国でも合意できているわけではありませんが、**日本の方がより混乱している印象**があります

→ IR担当者を人事異動の担当者としているのに、IRへ求めること、IRへの理想が高すぎる感じ

- **【深刻な問題】**
IR活動を支えるインフラ、法的整備状況が、米国とは違うのに、米国のIR担当者より、難しいことを求められている
- **【本プログラムの狙い】**
IRの本質を理解し、先ずは、基本的な業務に必要な知識・スキルを体系的に涵養するお手伝いをしたい

解説： IRとは（3）

■ IRの本質とは

- データ収集、整理、可視化 & 情報提供

■ 例：公開データの可視化



OIRE

OIREについて IR担当者向け実践プログラム 活動内容

このページを表示するには、認証が必要です。

パスワード:

認証情報を送信

パスワード : oireyu2016

グループワーク #2



#2. 事前課題について（60分）

■ 以下のトピック等について考えてみましょう

- 「総勤務時間（分）」が「120分以上」になった学生数は何人になりましたか？（答え合わせ）
 - **注意：正解に辿り着けなくても問題ありません**
- どのようにデータ分析（集計）を行いましたか？
- **難しかったところ、上手く行かなかったところ**について
- 【想像しましょう】作業終了後、複数の部局からデータの差し替え要求がありました。どのように対応しますか？
- みなさんが行なっている、面倒な手作業等について

※ 他の**注意点**等については「グループワーク #1」と同じです。

解説：事前課題について

■ 事前課題の解答例を講師陣が説明します

- 山本 幸一（明治大学） → エクセル
- 浅野 茂（山形大学） → Exploratory
- 田中 秀典（宮崎大学） → R（新字体 ⇄ 旧字体）
- 藤原 宏司（山形大学） → R（名寄せの合致率計算）

まとめ



まとめ

- 今日の内容は、これからスタートする本プログラムにおける**学修の動機付け**を目的としたものです。
 - 各トピックにおける詳細は、今後の授業でカバーします。
- 今後の流れ
 - 今月中：「IR入門」スタート&DMA環境の構築
 - 6/2（金）：第1回プレゼン発表会用データ公開
 - 6/24（土）：第1回プレゼン発表会
 - 6月下旬：講義動画の本格公開スタート